

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■102■

前回のコラムで、富岡製糸場を訪れ、和洋折衷の木骨れんが造り、広い作業場を確保するためのトラス構造、工女の勤務制度など、当時の日本にはない最新技術の導入を支えた人々の挑戦を知るとともに、設計図の残っていないブリュナエンジンを復元した「富岡スピリッツ」に感激したことを書いた。

富岡製糸場からの帰途、「あの製糸場はいくらでできたんだろう」と気になったのが金融マンのさが。調べないと気が済まない。

富岡製糸場の建設費

そのまま県立図書館へ行き、関係資料に当たってみた。

今井幹夫著「富岡製糸場の研究 前編」(群

現在の400億円超相当？

馬県文化事業振興会)にその答えがあった。全ての費用が分かるわけではないが、部分的には書かれている。まず、土地の買い上げ代金は1032両(1両

11円)。建築資材の木材は運送賃を含め1200両(1両11円)、れんがは15万本で「百本に付 代金八

十五銭」との記載を基

にすると合計1275両(東洋経済新報社)

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

気罐据所并蒸殺所」の費用は2万5千円。土地代、建築資材等とは桁違いだ。当時、ヨーロッパから導入する機械の価格がいかに高かったかが分かる。

10億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ

の国は明治5年の国

の歳出は625年の国の歳出は62

の映画興行収入が404億円、と言えはイメ



肥後秀明(ひご・ひであき) 1969年生まれ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局審査企画課長兼上席審査役、金融機構局審査運営課長兼上席審査役などを

を経て2022年4月から現職。